木木と野鳥と せせらぎと

清流のそばでおもいっきり森林浴

～増毛町・渓流の木木～

文・写真・題字
ひろし
としひと
さえこ
ゆりな

お姉ちゃんと僕は夏休みの宿題に追われていた。休みも残り二週間となったある日、「気持ちが背伸びできるところに行きたいなー」と、お姉ちゃんがぽつり。

家族みんながアウトドア好き。でも、僕たちの都合などでなかなか外出する機会が少なかった。ここはお姉ちゃんの気分転換のためにもと、お父さんとお母さんに次の日曜日のプチ旅行を提案。

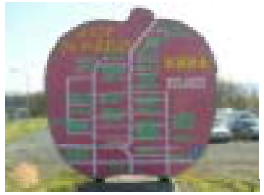
みんなで日帰り旅行先を相談し、「フィトンチッドがいっぱいの森林浴」とは決まったけれど、せっかくだからと、お父さんは地元の美味しいお酒が買えるところ、お母さんは新鮮な海の幸、お姉ちゃんにいたっては甘い果物が味わえるところ、ときちゃった。家族みんなが思い思いの主張を展開し、行き先が決まらない。

森とお酒と海の幸、そして果物！そんなところどこにあるの？みんなが頭を抱えてしまった。

たしか社会の時間に日本最北の果樹園地帯を習ったことが……増毛だ！インターネットで増毛町を調べていくと留萌森づくりセンターのHPで「渓流の森」が、町のHPではお酒や海の幸が紹介されている。渓流の森に行こう！僕の提案に家族全員が納得。

快晴の朝八時、お父さんの運転で札幌の家を出発。国道二三一号を一路北上。石狩市を通過して厚田村が近づくにつれ左側に紺碧に輝く日本海が見えてくる。この道は日本海オロロンラインとも呼ばれ海と海岸がおりなす絶景が楽しめる。浜益村から沢山のトンネルを通過すると左側に「増毛町」という道路標識。まだ十時過ぎ、約二時間で増毛町内に入った。早いぞ！近いぞ！久しぶりに心と身体が弾んでる。

増毛町に入って暑寒別橋を渡り、二つ目の信号を右折し、そのまま二三一号を走行。三つ目の信号を通過すると右側に「ようこそフルーツの里ましけへ」というリンゴの看板がある。この看板に誘われるように右折。ここが渓流の森への入口なのだ。



人々を歓迎する
リンゴの看板

●フルーツ街道から渓流の森へ

りんごの看板を右折すると道道暑寒別公園線に入る。左右には果樹園が広がっている。この地域だけで一二〇ヘクタールの果樹園があり、季節の順に、いちご・さくらんぼ・りんご・桃・ブドウ・梨などが実るそうだ。「これが日本最北の果樹園地帯？すごーい！」お姉ちゃんの目がマンガの主人公の目と同じようにキラキラと大きく輝いた。

そのまま暑寒別岳登山口へと車を走らせる。暑寒別川の清流を右手に見ながら直進していくと途中から道が細くなり一車線となる。徐行しながら進むとりんごの看板から約十キロの地点で舗装が切れた。ここからは砂利道となるが乗り心地は悪くない。砂利道を走ること約二〇〇メートル、突然「渓流の森」の大きな看板が視界に飛び込んでくる。

渓流の森の入口
森と神秘の森
ここからが始まる
渓流の森の看板

森の看板を通過して両脇一面にタンポポが咲く道を進むと二分程で駐車場に到着。時刻は十時三十分を回ったところだ。

渓流の森が高く・深く・目の前に広がっている。家族全員が車の外に飛び出す。みんなが背伸び！思わず深呼吸しちゃった。「うまいぞ森の空気！。まぶしいぞ森の緑！」お父さんが叫んでる。

渓流の森は、「望岳の森」「さえずりの森」「せせらぎの森」「清流の森」の四つのゾーンに区分されている山岳公園。大型バスの駐車も可能で、駐車場には車椅子の人も使えるトイレも隣接して設置されている。

望岳の森から
秀峰・暑寒別岳を望む

●暑寒荘と望岳の森

駐車場から木製の階段を一気に駈け上がると暑寒別岳登山のベースとなっている暑寒荘がある。標高二八〇メートルにあり、木造三階建、六〇人が収容できる山小屋だ。

木製の階段を駆け上がると
暑寒荘の広場に出る

暑寒荘の前には小さな池。池の水が緑色だ！と思ったら水面に森の木々が映っているのだ。この池から流れ出るせせらぎに架かる木橋を渡ると望岳の森の入口だ。

案内板の横を歩いていくと暑寒別岳に続く登山道と望岳の森に続く山道の分岐点となる。「若い頃にはよく登ったもんだ。暑寒別岳は華麗な高山植物が咲き誇る美しい山だぞ」お父さんの若かりし頃の自慢話が始まった。だれも聞いちゃ**い**ない。僕が先頭。看板に従って望岳の**森**に入る。

細い山道をゆっくりと登る。山道を覆うように原始の森が迎えてくれる。山道の脇にはツツジなど、春には可憐な花を

咲かせる木も見られる。木々の枝が風に揺れ、緑の風が頬をなでる。お母さんとお姉ちゃんもそよ風に髪をなびかせて登ってくる。気持ちよさそうだ。しばらくすると木製の階段にさしかかる。一九七段の階段を登っていくと四阿（あずまや）があった。小さな、決してきれいとは言えない建物だが、ここで一休み。

ツツジの花

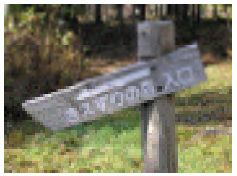
分岐点から四阿まで五分から六分の道程だ。四阿からは秀峰・暑寒別岳が遠望できる。まさしく望岳の森だ。

標高一四九一メートルの暑寒別岳は多くの登山者で賑わう名山で、山頂からは日本海に浮かぶ天売島や焼尻島、その遙か後方には利尻島が望めるとのこと。また、積丹半島、大雪・十勝岳連峰、芦別・夕張山地なども一望できるとか。近い将来、お父さんと二人でアタックしてみようか。

四阿（あずまや）

●さえずりの森を歩く

四阿から登山道方向に進み下りの階段を降りる。八つ橋を渡ると登山道に出る。下りに進路を取ると右手に小川が流れている。小さな流れだが気持ちを涼しくしてくれる。道が決して良くないので慎重に下っていく。



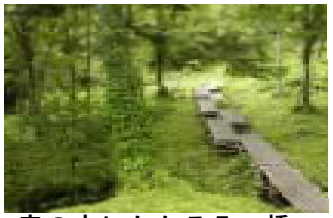
左手に八つ橋が見えてくると「さえずりの森」の看板。

八つ橋を踏みしめ木製の階段を上り森の中に進もうとすると、いつの間にか双眼鏡を持ったお母さんが先頭に立った。

渓流の森は野鳥の宝庫。特に、さえずりの森では多くの野鳥の声を聞くことができる。

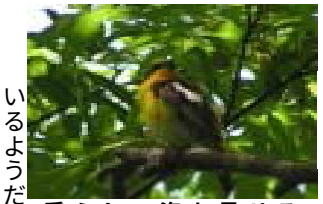
お母さんは予め用意した双眼鏡でその愛らしい姿をゲットするつもりだ。

静かに、ゆっくりと森の中を進む。小鳥の声が四方八方から僕の耳に届いてくるが、その姿は見えない。静寂の中で何とも心休まる小鳥の声。



森の中にかかる八つ橋
散策を楽しく快適にしてくれる

「キビタキ」発見！小声でお母さんが叫ぶ。お姉ちゃんもお母さんの双眼鏡を覗く。お母さんが指し示す指の先をたどると小枝の上に止まっているキビタキを確認。きれいだ！かわいい！どこからともなく聞こえてくる野鳥との会話を楽しんでいるようだ。



愛らしい姿を見せる
キビタキ

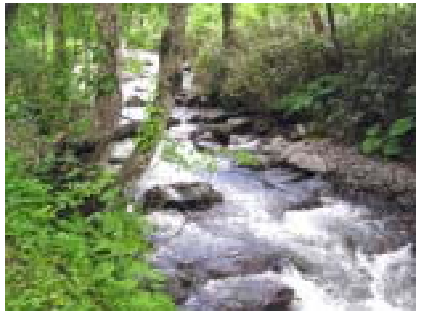
バードウオッチングに成功。今日はラッキーな一日だ。

タチカメバソウ

ネジバナ

●清流の森を散策

さえずりの森を出ると砂利道に合流する。砂利道を道なりにしばらく下っていくと「清流の森」と「せせらぎの森」の看板が目に付く。木橋を渡り清流の森に入る。森の中には小川が流れ、ミズバショウなど水辺の植物が群生している。水の流れを楽しみながら進んで行くと、水量の多いポンショカンベツ川が目に飛び込んでくる。



ポンショカンベツ川の清流

透明度の高いこの清流は勢いよく流れ、白いしぶきをつくりながら流れている。

とてもきれいな水なので魚が住み着いていると思われるが、川の中を覗いてみても魚はみつからない。魚釣りが大好きなお父さんも、ここでは釣ろうとは言わない。ここは禁漁だから当然だが、魚が泳ぎ、花々が咲く豊かで貴重な自然を壊してはいけないと考えているからだ。こんなお父さんでも良いところはある。

木材チップが敷き詰められ、感触のやわらかな遊歩道をゆっくり歩いていく。その一部は、チップ舗装となっていて傾斜も緩く、幅も1・5m位あって車椅子でも通行できそう。しばらく進むとさっききた砂利道にでた。駐車場も目の前に見える。

●せせらぎの森で遊ぶ

砂利道を「清流の森」と「せせらぎの森」の看板まで戻る。看板から緩やかな下りを歩きせせらぎの森へ。長い八つ橋を渡っているとその下を流れる、本当に小さなせせらぎを発見。

突然、お父さんが笹の葉を切って何かを作りはじめた。笹船だ！僕もお姉ちゃんも見よう見まねで笹船作りに挑戦。三つの船がせせらぎを泳いでいく。小さなせせらぎは背の低い草花が群生する中を縫うように流れている。笹船が草花に見え隠れして進んでいく。

そのまませせらぎの森を歩くとキラキラと輝く水面が飛び込んでくる。暑寒荘の池だ。水面に映る暑寒荘も絶景！池を回るように歩いていくと暑寒荘前の広場に出た。

山小屋から出てきたおじさんに話を聞くと、春にはニリンソウやスミレなどの可憐な草花が、秋にはナナカマドやカエデなどの紅葉が見頃だとか。

必ずまた来るね、とおじさんと再会を約束。家族みんなが渓流の森を見上げ、静かな時を楽しんでいるようだ。

静寂の中で水面に姿を映す暑寒荘

●フルーツの里・増毛町

渓流の森でたっぷりと森林浴を楽しんで、さっき来た道を戻る。途中、お姉ちゃん要望の甘い果物を買う予定。渓流の森を出発して十二分程で果樹園が見え始め、フルーツロードに入る。道端にある「さくらんぼ直売」ののぼりに誘われて一軒の果樹園にお邪魔することにした。

直売所には、さくらんぼやプラムなどが並べられており、甘い香りが漂っている。

お姉ちゃんが直売所のおばさんと楽しそうにおしゃべりしている。六月のいちご狩りに始まり、今の時期はさくらんぼ、秋にはリンゴやブドウ狩りが楽しめるとか。

甘くみずみずしい大粒のサクランボを買って、今度はのんびりと収穫体験で楽しみたいね、とお姉ちゃん。

●日本最北の酒蔵と地酒

いよいよお父さんの出番。増毛町には日本最北の酒蔵があるとか。国の重要文化財や北海道遺産に指定された歴史的建物群を車窓から眺めていると駐車場に到着。創業は明治十五年、暑寒別岳の伏流水に支えられた酒蔵で、由緒ある伝統が受け継がれている。

駐車場のそばに暑寒別岳の伏流水が飲める場所があった。さっそくお姉ちゃんと僕が一口づつ……ん！冷たくてとっても美味しい。

お父さんとお母さんは僕たちをほっといてお店の中へ。後を追って行くとお母さんが試飲中。「このお酒美味しいわー」と頬を赤らめて一言。「美味しいだろう。飲みやすく、まろやか。大好きな銘酒さ」お父さんはさっそく中瓶を二本購入。「今日はこれで晩酌だ」と満足げ。

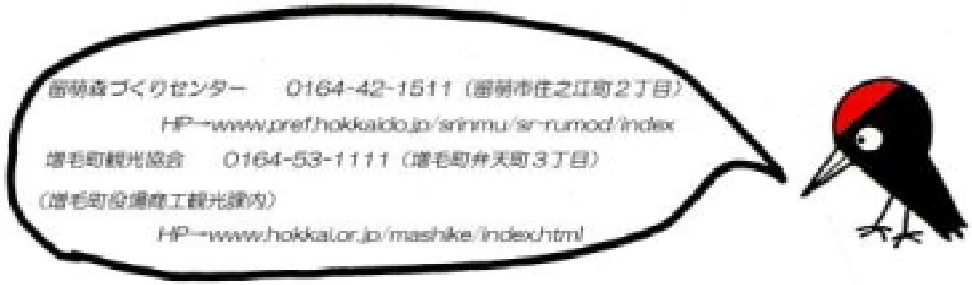
●新鮮な海の幸に出会う

最後はお母さん要望の新鮮な海の幸。増毛港近くにある鮮魚店を訪ねた。

ウワー！店中一満にタコ・ウニ・甘エビ・カレイ・ホッケなど沢山の鮮魚などがところ狭しと並べられている。お店のお姉さんによれば「今朝揚がったものばかり」だそう。新鮮なはずだ。

迷いに迷ったお母さんとお父さん。結局、甘エビ1キロを購入した。きれいにスーッと透き通った甘エビ。うんまそう！今晩の夕食が楽しみだ。

エゾアジサイ



渓流の森
案内図
暑寒別岳
西門
さえずりの森
望岳の森
ツツジ
階段
ハつ橋
ササラぎの森
エゾアジサイ
カエデ
チナカマド
キャンプ場
室内板
トイレ
ハつ橋
ハつ橋
清流の森
ミカドショウ
ポンショカンベッ!!
バリアフリー遊歩道
東
南
西
北